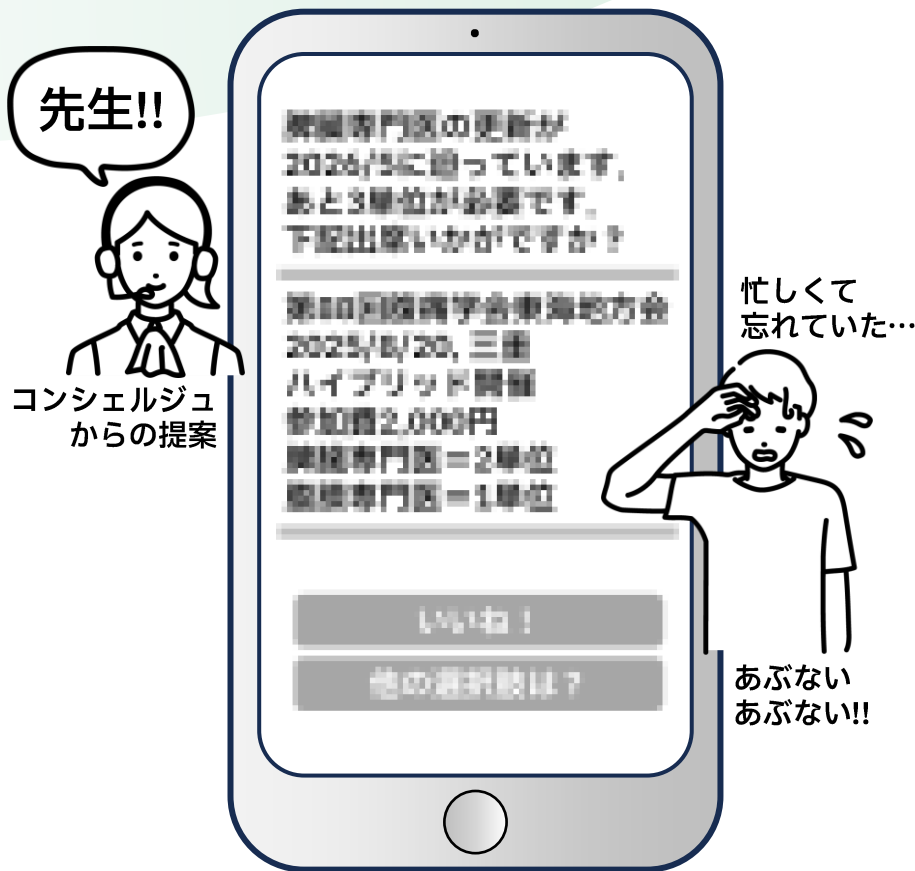


医師の働き方改革へ寄与する資格ポータルサービス

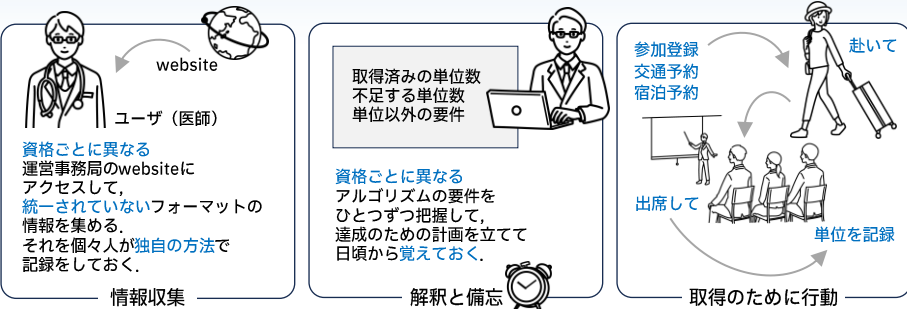
新潟大学 医学部 医学科 総合診療学講座 特任助教 鎌倉栄作（医師・歯科医師）



(C) Eisaku Kamakura, 2024.8.13

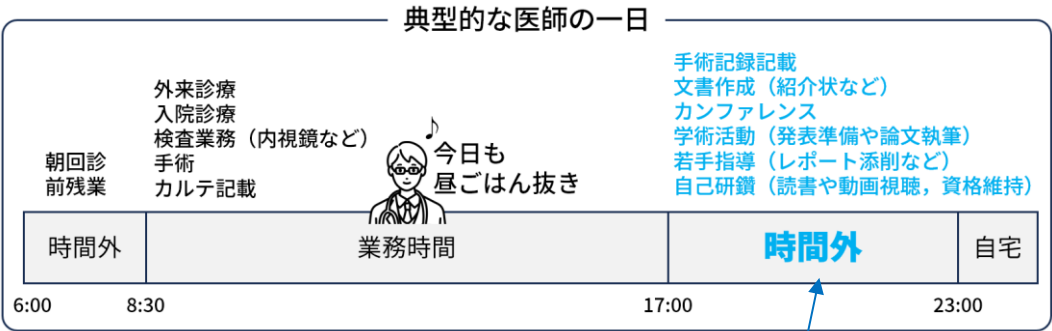
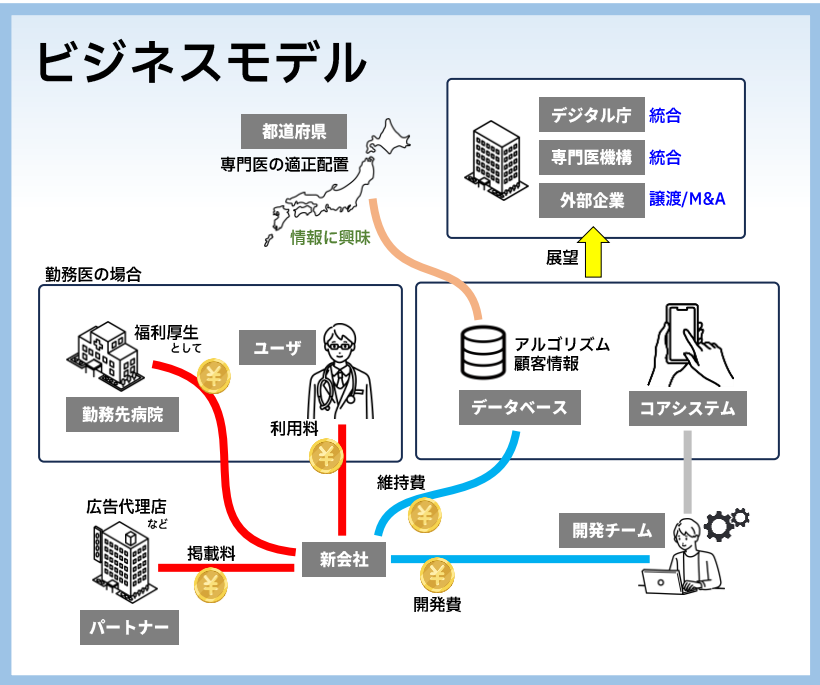
概要 専門医資格を持つ医師が、効率的に資格を更新するためのサポートを行うサービスである。業務時間外に費やしていた工程をDXの活用より削減することで、間接的に働き方改革へ寄与する。

課題 医師免許とは違い、専門医資格は更新が必要である。その間隔は5年程度と長い、それなりのエネルギーを費やしているのが現状である。



詳細 情報の収集や提案については、AIを用いたコアシステムが処理を行う。利便性を考慮し、マルチデバイスに対応する。

主なサービス内容	
資格ごとに異なる要件を、一元的に把握できる。（ワンストップ化）	
講演会に出席したら、その場で単位を登録できる。（スマート入力）	
「いつまでに」「何を」といった提案や通知を受けられる。（リマインド）	



【働き方改革】業務時間外に行っている作業に目を付けたところに新規性がある

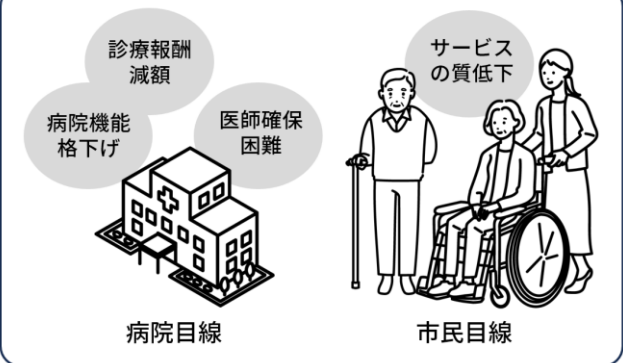
競争優位性

- 医師チームによる一貫体制での開発
- ① 問題抽出（当事者）
 - ② システム構築
 - ③ 学会との交渉（ここが難関）
 - ④ ユーザとして実証（当事者）

今後の展望・課題

システムのブラッシュアップと資格の網羅
会員数の増加
収益性向上（広告収入、福利厚生、ポイント利用）
M&A（医師ポータルサイトへの吸収）
理想的にはマイナンバーへの統合（インフラ化）

専門医喪失の影響



意義

資格を維持することは、病院ないし地域医療にとって利益となる。具体的には勤務先の病院の機能評価（いわゆる格付け）や、リクルートにまで影響する。そして本事業による業務効率化により、医療の質や安全性を向上する。最終的なステークホルダーである、患者・市民に還元できる意義は大きい。

ようやく確定申告の電子化が、実用レベルになってきた。医療業界においてもDXが遅れており、ニーズと現実がマッチしていない。問題意識を持ったとしても、転職や転職が多い勤務医は「まあ、いいか…」と順応してしまう。問題の放置による損失は、計り知れない。

キーワード

働き方改革、デジタルトランスフォーメーション（DX）、自己研鑽
社会システム工学関連、情報ネットワーク関連、データベース関連、経営学関連